War Cry 11月号

経路版

2025 November No.2896

二〇二五年 十一月一

日

発

行

明 治

八 年 創 刊

福音版・毎月一日発行 広報版・奇数月十五日発行

あなたには

髙畠 欣男

任した後、年齢的にも節目の小隊(教会にあたる)に赴 リスト教伝道者)として二つ 前半の数年は、未知の分野 燃えるような夏です。 た。人生の季節は真っ赤に す学びや研修に熱中しまし 意味がある。それを見いだ かち合う。日々の業務にこ のため、吸収に努めました。 した。その施設で約十五年 会福祉施設の辞令を受けま を迎える頃に、救世軍の社 「神様の愛」を利用者と分 神様が示してくださる 働きに携わりました。

果てていました。 のギャップに私の魂は疲れ 愛を行動で表す理想と現実 来事とその対応に追われ、 ました。施設の現場での出

を実感しています。

に向かって歩いていること

さわしい安定感や力量と自 自分」というセルフイメー 年齢にふ 人生後半

私の人生の旅を支える霊的ば退職年齢に達しました。

闇で震えています。 ない、その不満と憤りで家

般的に言え 帰るべき家一 いたいことは、私たちには迎えます。最後に分かち合 びとしている今、私は冬を的な旅を共に歩むことを喜 それぞれの人生の季節と霊 伝えさせていただきたい 待つ家がある、ということ です。その確かな希望をお 現在の任地で、皆さんの -父なる神の

(救世軍士官〔伝道者〕)

妻と私は、救世軍士官(キ

しかし秋は既に訪れてい

はない自分との間で苦しみ 信に満ちた姿。でもそうで のありたい姿は、 ジがありました。 同時に「いつも足りない

時期にもかかわらず「まだ これから」と誰かに言われ 人生の締めくくりに入る

ている気がして、青年であ

てて父に赦しを乞います。 に憤りを抱えていました。と、受け入れられない不満 らを奮い立たせていました。 るかのように振る舞い、自 父親から受け入れられてい 子は怒り心頭です。自分は と願い、努力を重ねる兄息 息子を赦し、最上のもてな ところが父はこの放蕩の弟 き勝手に生き、落ちぶれ果 があります(ルカによる福音 在を認めてもらいたい欲求 半面、成熟した私という存 つも父に受け入れられたい しで受け入れます。一方、い 人兄弟がいました。弟は好 書15章11~32節)。兄と弟の二 聖書に、ぴったりの場面

るお方です。_

全く関係ない。どちらにし

ても変わらず愛してくださ

道者であっても、

なくても

認欲求も必要もなかったの しかの者になることも、 るには、最初から、なにが 抱き抱えたに違いありませ 父は深い愛の懐に兄息子も で迎えに行ってなだめます。 に満ちた兄息子を家の外ま ん。父なる神の待つ家に入 しかし父は、怒りと憤り

どこでしょうか。私の季節 と変化を少しご紹介します。 皆さんの人生の季節は今、

神様は、あなた(筆者)が伝 友人から与えられた言葉は 大切な贈りものです。 「私(友人)の信じている

それは神様の前に全く必要 実は以前の願望は、自分の も今は、その自分を手放し、 を脱いで父なる神の待つ家 ではなかったこと。 守るために覆う鎧であって、 傷から目をそらし、自分を ありたいと願っています。 解する者に、そういう者で もらえるよりも、誰かを理 に、自分が何者か理解して よりも誰かを受け入れる者 自分が受け入れられること 承認欲求に苦しんだ私。で かつて、なりたい自分と 今、鎧

^{あかし} 証言のページ 信仰の体験談

共にいてくださる神に 賛美を献げて



作山 順子 さん (救世軍士官)

柞山順子さん。 キリストの救いを伝える伝道者とし 導かれたきっかけから、今に至る歩みの証言です。 て働き、また、救世軍のブラスバンドではトロンボー ンを担当して賛美の楽の音を奏しています。 救世軍士官として現在、北海道に遣わされている

の時に伯母が癌で亡くなり、 せんでしたが、私が高校生 教会に行ったことはありま 庭で育ちました。キリスト は仏壇のある浄土真宗の家 私の家族は祖父母と両親 家に ませんでした。 神田小隊(教会にあたる)で はすぐに信じることができ が続きました。 が信仰をもち、 通うようになり、最初に母 族と救世軍との出合いでし 葬儀をしていただくことに た。葬儀後、 なりました。これが私の家 家族で小隊へ しかし、 次々と家族

弟の八人で、

なら、 ました。私は〈神様がいる かできないものかと、考え 等の問題を神に頼らず何と という問いかけと、罪責感 救ってくれないのですか〉 ど素直に恵の座へ出て行き ことを拒否し続けていまし 声をかけられました。祈る ら「お祈りしませんか」と たが、この時は不思議なほ 小隊士官(牧師にあたる)か 高校三年の十二月二十四 サービスに出席した際、 クリスマスのキャンド なぜ苦しい状況から

信仰に導かれた経緯

紙2章8、9節 す。」(エフェソの信徒への手 ることがないためなので せん。それは、だれも誇

神の臨在*2

九五年三月のある集会の時 を初めて聞いたのは、一九 フ・バンド(JSB)の演奏 私がジャパン・スタッ JSBの音色を聞 ウエリントン・シタデル・

を巡らしていました。

とこ

でした。

イエス様を救い主として信が取り去られ、悔い改めて ほかありません。 は神様の恵みによると言う できませんでした。だから いの体験を説明することは のか、私に起きた変化と救 ったので、なぜ信じられた 聖書の理解がほとんどなか じることができたのです。 る罪を認めることへの恐れ に神様の愛を感じ、 私に愛を示し続けるその姿 葉が耳に入ってくると急に 復活を語り、祈る士官の言 当時、 ではなく、神の賜物です。 行いによるのではありま とは、自らの力によるの 恵みにより、信仰によっ て救われました。このこ 「事実、あなたがたは 私が信じ救われたの イエス様の十字架と 私はキリスト教や 、内在す

もって兵士(救世軍の正式な 願いが起こされました。そ この時以来、JSBのよう 私は確かに神様がこの場に は見えない神様に向けられ とはできませんが、私の心 形で私の体験を証明するこ 私の理解を超えたものでし とのない音色への驚きと おられることを深く感じ、 たのだと思います。そして、 た。神様を目で見ることは ったように感じた体験は、 会場の空気がガラリと変わ いた瞬間、 な賛美を私もしたいという できませんし、目で見える 信徒)になりました。 して、この次の週、 今まで聞いたこ

救世軍のバンドの音色を聞 ージーランドへ行きました。 いて学びたいと思い、ニュ 二〇〇六年には、海外の 喜びを



佐野小隊離任時に(前列中央)

の愛を自分が勝手に小さく をし、涙が溢れて止まりま 込むような感覚と、聖霊な 私は神様の愛が優しくて温 バンドの音色を聞いた瞬間 気づかされました。 してしまっていたことにも せんでした。さらに、 る神様の働きを感じる体験 かな大波となって私を包み 神様

福岡小隊時代の社会鍋(筆者は左から2番目)

JSB での 奉仕

の生活を知る貴重な時でし と寝食を共にする生活は、 クリスチャン生活や献身者 隊に泊めていただき、士官 生時代は九州の福岡小隊に る道に進みました。 所属していました。週末、小 高校卒業後、 ちょうどこの頃、 看護師にな 同じ 救世軍の会館前方にある祈りの場所 JSBで特別養護老人ホームを訪問、演奏。2010年頃

うになってきたその年の九 でいた祈りの竪琴(リラ・プ ャンの友人たちや当時学ん なくなりました。クリスチ 月、母が亡くなり、音は出 ました。ようやく吹けるよ ーンを担当することになり 向けて、私はバストロンボ B)百二十周年の記念行事に ル・スタッフ・バンド (IS なわれるインターナショナ 広く教えていただきました。 者・人としての在り方等、幅 賛美に対する姿勢、信仰 感じ取ることの大切さと、 周囲の人の音色と息遣いを 繋がりました。JSBでは、 二〇一〇年、翌年におこ

能力をください。聖霊・ません」と祈り、「聖霊・ 与えていただかないと吹け きません。私は「楽器を吹 返していました。 う賛美を祈りのように繰り ろに満ちてください」とい く能力も技術も、神様から 私の内面に深い影響を与え 出るようになりましたが、 しばらくすると楽器の音は ち上がることができました くださったので、何とか立 めてください 聖霊 ここ ていたようで、力が湧いて 大切な人を失った悲しみは

年代の人たちが多く集まっ

くの人が私を慰め、支えて レカリア)の方々、そして多

まれ充実した日々でしたが、

苦しまなくてはならない

日々が、後のJSB奉仕に 習に取り組みました。この ていたため、皆でバンド練

日々でした。私の音を褒め JSBの一員として、神様 たため、天を指さしながら 自覚と、神様が祈りを聞い ような状態ではないという に身も心も委ねて演奏する 周年の各コンサートでは、 イギリスでのISB百二十 てくださったことがわかっ したが、褒めていただける ていただいたこともありま ・ルヤ」とお伝えしました。 それは神様の力です。ハ そして迎えた二〇一一年、

献身への導き

看護師時代は同僚にも恵

れかもしれないと思いまし ようだ」と言われました。私 働きました。当時のチャプ けていただき、救世軍の病 りました。その後、チャプ のか、また抱えていた内面 院を退職。二〇〇八年から 歩むべき道を探し求め、病 道が一致していないと思い という私の願いと看護師の きました。 生を考えるようになってい まで以上に士官としての人 たが、それも束の間で、今 レン長から「水を得た魚の 院で信徒チャプレンとして レンとしての働きに声をか の課題と向き合う日々を送 人の人間としてどう生きる 〈神様のために働きたい〉 探し求めていた道はこ 一肩書が何もないただ一 わたしは彼に示そ

ども、二〇一〇年に 込められていましたが、名 拒み続けていました。けれ 前に反して私は不従順で、 であるようにという願いが 「私に士官は無理です」と 私の名前には神様に従順

が選んだ器である。わた を伝えるために、わたし エルの子らにわたしの名 しの名のためにどんなに 人や王たち、またイスラ 「行け。あの者は、異邦

> という働きをすべて手放し、 は私に様々な働きかけをし 年私を支え励ましてくれた 士官学校 (神学校にあたる) に 護師やチャプレン、楽隊員 は揺らぎませんでした。 と思い、召しに応える思い ることができるよう、神様 から直接献身の決意を伝え た母が倒れる前に、私の口 が献身することを願ってい だから、家族の誰よりも私 の年月も知っておられます。 の人生だけでなく、母の命 でした。しかし、神様は私 い〉に思えるような出来事 す。〈献身することが間違 母が心肺停止で倒れたので に伝えました。その二日後、 ようやく献身の決意を両親 五年以上経っていましたが、 最初に献身を考えてから十 おられると確信しました。 様が私を士官として召して という聖書の言葉から、神 てくださったのではないか、 人校しました。同期生は長 そして、二〇一一年、看 う。」(使徒言行録9章15、16節)

友人たちでした。

きと佐野保育園の働きの兼 は佐野小隊士官としての働 士官としての最初の任命

りましたが、悲しみに打ち

ひしがれた私の心は癒され

ていきました。

験)は、後に病院と施設チャ の中にあった死別の悲しみ ちとの関わりを通して、私 隊や保育園で出会った人た くださっていたので、進む 様が先々に助け手を備えて いでいっぱいでしたが、神 務でした。恐れおののく思 アに繋がっていきました。 が少しずつ癒されていきま ことができました。また、小 プレンに任命された時のケ した。このグリーフ(喪失体

えてくださったこれまでの ました。しかし、神様が与 母は亡くなったのではない ありましたし、私のせいで 解を得るのが難しいことも はあります。また、悲しみ 賛美を通して、時間はかか 多くの人たちとの出会いや たことに気づくこともあり 精神状態が平穏ではなかっ た。振り返ってみて、私の のめされたこともありまし か、という思いに心が打ち は人それぞれ異なるので理 って深い悲しみを抱くこと クリスチャンであっても、 天国での再会を信じている 大切な人を亡くす経験によ 医療従事者であっても、

> をしてくださる。主は御名にふさわしくがさる。主は御名の陰の谷を行くときもの陰の谷を行くときものとださる。あなたの杖でいたださる。あなたの杖であなたがわたしと共にいるなたの杖であなたの杖であなたの杖であなたの様でもったと歌による祈りを届ける活動で新たな任命をいたださます。そして、十一月の全国大会で再びJSBのの全国大会で再びJSBのの全国大会で再びJSBのの全国大会で再びJSBのの全国大会で再びJSBのの全国大会で再びJSBのの全国大会で再びJSBのの全国大会で再びJSBのの全国大会で再びJSBのの全国大会で再びJSBのの全国大会で再びJSBのの全国大会で再びJSBのの全国大会で再びよりを思いる。 せてくださる。主は御名 りに伴い 魂を生き返ら 休ませ 憩いの水のほと は何も欠けることがない。 主はわたしを青草の原に 「主は羊飼い、わたしに

げたいと思います。 この感謝を携えて賛美を献 びを与えてくださいました。 信じ、福音を宣べ伝える喜 心を慰め癒し、イエス様を かなものとして示し、私の 救世軍の音楽を通して神様 は、私に神という存在を確 *****5

こしてくださいます。… うずくまっている人を起 ます。」(詩編4編4、21節) わたしの口は主を賛美し 人をひとりひとり支え 「主は倒れようとする ř

WINDOWS 'ARMV V●RLD

世界をみつめて

〈インド〉モンスーンによる豪雨災害被 災地への支援

2025年8月、インド北部のパン ジャブ州とジャンムー・カシミール州 は、ここ数十年で最悪のモンスーン災 害の1つに見舞われました。集中豪雨 は広範囲にわたる洪水と土砂崩れを引 き起こし、何百もの村や町に甚大な被 害をもたらしました。

パンジャブ州では、6.600人以上 が88の救援キャンプに避難しました。 ジャンムー・カシミール州では、子ど も5人を含む7人の命が奪われ、4人

が負傷したとのことです。救助活動は 今も進行中で、数千人が避難を余儀な くされています。

現地の救世軍は、速やかに2つの支 援プロジェクトを開始し、最も脆弱な コミュニティに紅茶、小麦粉、豆、砂 糖、油、ベッドシーツなどの必要不可 欠な救援物資を提供しています。

状況が依然として困難な中、救世軍 は救援活動を拡大するために地方自治 体やその他の人道支援機関と連携して います。また、緊急支援と長期的な復 興計画を継続するための公的支援と寄 付も呼びかけています。なお、豪雨は 国境を接するパキスタンの州にも影響 を及ぼしていて、救世軍は調査訪問を

実施し、政府 と話し合って いますが、現 時点では対応 や人員の派遣 はおこなって いません。

(2025年9月 2日現在)







救世軍とは? What is the Salvation Army?

救世軍は、世界 134 の国で活動するプロテスタントのキリス ト教会で、国際本部は英国ロンドンにあります。1865年、英国 のメソジスト教会の牧師ウイリアム・ブースと妻カサリンによっ て始められ、東ロンドンのスラム街で、貧困の中に生きる人々に 助けの手を伸べつつ、神様の愛と救いを伝えてきました。

日本での活動は 1895 (明治 28) 年に始まり、今年で 130 年 を迎えました。現在、全国の小隊(教会にあたる)での伝道や地 域奉仕活動とともに、病院(ホスピス併設)、社会福祉施設を運営 しています。社会福祉施設の分野は、高齢者介護、女性自立支援、 児童養護、保育、アルコール依存症者回復支援と多岐にわたって

います。各施設では、キリスト教 の精神に基づき、利用者お一人 おひとりの存在を尊び、健やか な生活が保たれることを願いつ つ、日々、働きを進めています。



〈ご案内〉 救世軍インターナショナル・リーダー

リンドン・バッキンガム大将 及び ブロンウィン・バッキンガム中将 来日間近!



救世軍全国大会 2025 一新しい地平線へ一

どうぞお集いください!

11/22 (土) 午後 2 時 入場無料 全席自由 事前申込み制 バンドレイジング・チャリティー・コンサート

於:東京都 中央区立日本橋公会堂

コンサートご入場には予め QR コードからの お申込みが必要です。定員になりましたら締 め切らせていただきますのでお早目にお申し 込みください。

11/23 (日) 午前 10 時 入場自由 大会聖別会(礼拝)

於:東京都千代田区 日本教育会館9階

- 11月 30日は社会鍋の日

救世軍の特色の一つに「社会鍋」という街頭募金があります。 主にクリスマスシーズンにおこなわれますが、近年は救世軍公式 ホームページより、年間を通してご協力いただけるようになりま した。皆様から託される資金は、街頭生活者支援、高齢者・母子 支援、障がい者施設への支援、国内外の災害被災者への緊急支援 などに用いられます。 II 月 30 日は、一般社団法人日本記念日 協会により「社会鍋の日」と認定されています。



☆『キッズ・ゴスペル』 コーナー☆ (子ども向け紙面)

没间

左の QR コードから、今月 の『キッズ・ゴスペル』を 閲覧できます! 聖書の お話も動画で見られます。 ぜひ、ご覧ください!

救世軍公報 ときのこえ

発行日 福音版/毎月1日、広報版/奇数月15日 定価 福音版 /1 部 40 円、広報版 /1 部 100 円

(税込) クリスマス特集号 (12月1日号) /1 部 100 円

振替 00180 - 5 - 4400

救 世 軍 発行兼

印刷人 代表者 スティーブン・モーリス

編集人 山谷 真

発行所 救世軍本営 https://www.salvationarmy.or.jp

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 2-17 03-3237-0881(代表) 雷話

jpn.editorial@jpn.salvationarmy.org Mail

印刷所 有限会社コーチ印刷



聖書は新共同訳を使用しています ◎共同訳聖書実行委員会 ◎ 日本聖書協会 救世軍は、旧統一協会、 エホバの証人、モルモン教ではありません。これらの問題でお悩みの方は、下記救世軍にご相談ください。

【取り扱い支部】

救世軍への連絡をご希望の方は、以下の中から該当する項目及び住所氏名をご記入の上、救世軍本営に 記)、もしくは、上記救世軍にご連絡ください。

- ・私の近くの救世軍を紹介してください。 ・キリスト教についてもっと知りたいです。
- ・『ときのこえ』の購読を申し込みます。 相談を希望します。